

教室から見た近世日本の「四つの口」

—ICT を活用した歴博資料の教材化—

東京都立荻窪高等学校 難波道成

1. 実施学年及び教科・領域

高等学校第3～4年次 地理歴史 日本史 B

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 主題名 “鎖国” という名の外交

(2) ねらい

近世日本における「四つの口」での交易に着目し、そこで扱われたモノや人々の活動の多様性に気づく。ICT 機器の活用によって提示された資料から、歴史を読み解く手続きや感覚を理解する。

(3) 博物館との関連

歴博第3展示室の展示(写真)及び Web データ [<http://www.rekihaku.ac.jp/>] を活用、当時の交易にかかわる“モノ”、絵画資料を教材として PowerPoint に組み込み、生徒に提示する。

絵画資料：出島、朝鮮通信使、謝恩使、アイヌの人々

模型：生糸、踏絵、輸出用銀・棹銅、薬種・香辛料、有田焼、俵物

Web ギャラリー：江戸図屏風

3. 指導計画

今回実施の授業は通常の日本文史 B の授業内に位置付けられる。以下

(1) 単元名 幕藩体制の成立と鎖国

(2) 単元の目標

兵農分離、村落・都市支配、法・制度による支配秩序の形成などの観点から、幕藩体制の成立の様子について理解・考察する。当時の外交関係に関して、長崎・琉球・対馬・松前藩やアイヌを通して、それぞれオランダ・中国・朝鮮との交流や北方貿易が行われたことを理解する。

(3) 単元の評価規準〈学習活動に即した具体的な評価規準〉

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 知識・理解
単元(題材)の評価規準	幕藩体制の成立と当時の外交関係・国際環境に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	幕藩体制の成立と当時の外交関係・国際環境に関する課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、当時の国際状況を踏まえ公正に判断して、その課程や結果を適切に表現している。	幕藩体制の成立と当時の外交関係・国際環境に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	幕藩体制の成立と当時の外交関係・国際環境に関する基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
学習活動に即した具体的な評価規準	1 提示された教材に興味を持ち、それを踏まえた学習に意欲的に取り組むことができたか。	1 発問に対して適切な思考・判断及びそれを踏まえた解答ができるか。	1 提示された資料に対して適切な学習活動ができるか。	1 学習内容に関する基本的な内容～語句の整理ができているか。

(4) 指導観

① 単元観

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』「第4節 日本史B 2 内容とその取扱い (3) 近世の日本と世界」内の大項目として「近世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。」、また中項目「イ 近世国家の形成」に関し、「ヨーロッパ諸国やアジア各地が相互に交流する世界の動向の中で、我が国が受けた文化的影響やその外交体制の変化について、幕藩体制の形成と関連付けて考察させる。その際、秀吉の朝鮮出兵など東アジアにおける国際関係や、長崎、琉球、対馬、松前藩やアイヌを通して、それぞれオランダ、中国、朝鮮との交流や北方貿易が行われたことに着目させる。」とある。国内の統治とともに、その周縁に広がる世界との関わりの意識～理解～考察の機会である。

② 生徒観

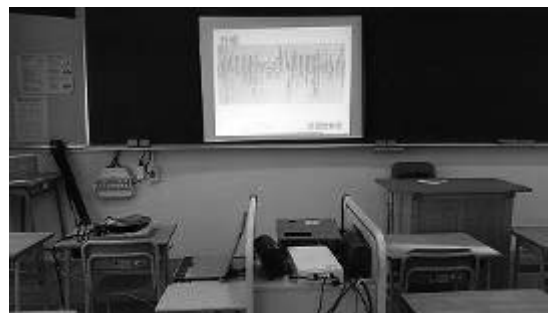
本校Ⅰ部・Ⅱ部の日本史B選択者である。全体的に「授業中は静かにノートをとっていけばよい」という考え～取り組みの生徒が目立つが、意欲的な生徒または「歴史は嫌いだけど、先生と話すのは楽しい」生徒も一部に存在する。授業者からの関わり方を工夫し、生徒の興味関心を全体的に高めることが重要である。

③教材観

- ・使用教材『高等学校 日本史 B 改訂版』 清水書店
『歴史資料館 日本史のライブラリー』 とうほう
- ・各（小）単元に対応した自作のプリント（ワークシート）及びそれに対応する PowerPoint を毎回準備し、各教室に配備されている ICT 機器（タブレットパソコン・プロジェクター（・DVD））を使用し、生徒に提示する。



ICT 機器（タブレットパソコン）



ICT 機器使用状況

（５）年間指導計画における位置付け

「古代から現代まで、日本の歴史の大きな流れをつかむ」ことと「世界と日本の歴史の関わりを理解し、多面的な思考力を養う」ことを本年度日本史 B の年間目標としている。また本単元は「織豊政権と桃山文化」の学習を受け、その後「幕藩体制の展開と元禄文化」「幕藩体制の動揺と化政文化」の学習へとつながる。本単元においては「幕藩体制の成立」の部分で年間目標の前者、及び「鎖国」の部分で後者を意識した学習を行う。

（６）単元の指導計画と評価計画（５時間扱い）

	内容	学習活動に即した具体的な評価規準 (評価方法)
第 1 時	江戸幕府は全国支配をどのように行ったのか	ア-1 (観察)・イ-1 (発言) ウ-1 (観察)・エ-1 (ワークシート)
第 2 時	領主は百姓と町人をどのように支配したか	ア-1 (観察)・イ-1 (発言) ウ-1 (観察)・エ-1 (ワークシート)
第 3 時	近世社会ではどのような身分に分けられたか	ア-1 (観察)・イ-1 (発言) ウ-1 (観察)・エ-1 (ワークシート)
第 4 時	日本は鎖国したのだろうか	ア-1 (観察)・イ-1 (発言) ウ-1 (観察)・エ-1 (ワークシート)
第 5 時 (本時)	“鎖国” という名の外交	ア-1 (観察)・イ-1 (発言) ウ-1 (観察)・エ-1 (ワークシート)

	<p>○対馬（口）での交易を知る</p> <p>朝鮮とは仲がよいのか？</p> <p>朝鮮出兵があったのは？</p> <p>どんな人々がどこに来ていたのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宗氏の存在に気づく。 ●具体的な交易の様子をイメージする。 <p>日本の南方には何があった？</p> <p>○薩摩（口）での交易を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●具体的な交易の様子をイメージする。 <p>日本の北方には何があった？</p> <p>○松前（口）での交易を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●具体的な交易の様子をイメージする。 <p>鎖国という名の外交があった</p>	<p>□画像を見ながらその背景にある多様な交易ルートの存在に気づかせる。</p> <p>□江戸城と朝鮮通信使の画像などから当時の交易（通信）の様子を具体的に考察させると同時にワークシートで知識を整理させる</p> <p>□絵画資料の情報は事実そのままではないことにも注意する</p> <p>□謝恩使・慶賀使の画像などから当時の交易の様子を具体的に考察させると同時にワークシートで知識を整理させる。</p> <p>□朝鮮通信使の画像との比較などを行い“アジア”レベルに視野を広げさせる。</p> <p>□アイヌの人々の画像などから当時の交易の様子を具体的に考察させると同時にワークシートで知識を整理させる。</p> <p>□“倭人”“アイヌ”という単一でない生活～文化の存在に気づかせる。</p>	<p>ア-1（観察）</p> <p>イ-1（発言）</p> <p>ウ-1（観察）</p> <p>エ-1（ワークシート）</p> <p>ア-1（観察）</p> <p>イ-1（発言）</p> <p>ウ-1（観察）</p> <p>エ-1（ワークシート）</p> <p>ア-1（観察）</p> <p>イ-1（発言）</p> <p>ウ-1（観察）</p> <p>エ-1（ワークシート）</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>○鎖国という言葉と実際の交易の様子の対比～整理</p>	<p>□ワークシートを用いて当時の国際交流の様子を視覚的に知識として整理する</p>	<p>ア-1（観察）</p> <p>エ-1（ワークシート）</p>

4. 実践の概要

日時 平成 25 年 11 月 19 日（火） 第 2 校時（9:35-10:20） / 第 8 校時（15:30-16:15）

対象 第 3 学年 日本史 B 選択者（Ⅰ部：9 名 / Ⅱ部：16 名）

場所 4 階 405 教室

指導計画に基づき実施した。

通常の日本文史 B の授業としては、パソコンとプロジェクターが準備され、生徒は PowerPoint のスライドショーを見ながら対応するプリントへの穴埋め、補足説明の整理という作業を基本として進められる。毎回の授業で、なるべく印象的な画像や地図を検討し、提示しているが、同時にプレゼンテーションソフトの機能を活用し、矢印や説明を画像に加え、資料を見るポイントに気づくことができるような工夫をしている。

導入部分で使用した踏絵の画像は生徒もどこかで見たようなものであり、海禁政策を印象付けることができた。次に、地図を用いて閉ざされたイメージとそこに開いていた「四つの口」を提示し、国際的な交流の存在に気づくことができた。

その後はそれぞれの窓口において交易されたモノや人々の様子を、歴博の資料を用いて効果的に提示した。最初に画像をそのまま映し出し、続いて解説をかぶせていく提示の仕方によって、「これはなんだろう」「こういったものがあったのか」という思考の流れを生徒に促すことができた。

5. 成果と課題

筆者の授業（選択日本史 B）は年間を通じて今回と同様のスタイルで行っている。

つまり、生徒にとってみれば普段どおりの授業を受けただけなのであるが、この通常の授業に関しては、特に ICT 機器の活用により、ただの語句の暗記ではなく、歴史をイメージできる授業を目指している。PowerPoint の使用で、紙で配布すると何十枚にもなるデータをスムーズに生徒に提示でき、また Web への常時接続環境を活用し、博物館などのホームページにリンクをはることもできる。同時に PowerPoint と連動するワークシートを配布し学習内容の定着にも努めている。

このスタイルに歴博のもつコンテンツ（展示やそれに関する情報）を取り入れ、生徒のイメージがより深く鮮やかになればよいと考え、今回の授業を提案した。博物館の展示資料そのものを写真で示すことによって具体的なイメージを持つことができることは当然ともいえるが、PowerPoint で説明を加えることによりモノを見るポイントを焦点化することが可能となった。展示室に引率され（教室での絵画資料やレプリカの使用であっても）、「展示を見なさい」「この絵を見なさい」と言われ、何となく見てしまう生徒は多い。自力で試行錯誤しながら見方を学ぶことにより歴史的思考力は培われるものであるが、途中で思考をあきらめてしまう生徒にはもう少しの促しが必要であると考え、教材を開発した。

これにより何を見て、何を考えればいいのか分からないから授業を投げ出してしまおう状況は（本校に限らずそのような生徒も多いが）改善された。また、「資料に基づいた歴史の叙述」に興味を持ち、博物館への興味を高めた生徒も現れた。

今後の課題としては、資料活用の次のステップに対応できる教材の開発を考えたい。今

回、例えば「江戸図屏風」から一場面をあえて切り取り、生徒に提示したが、これを踏まえて「今度は自分で探してみよう」「自分で考えよう」と思わせるような教材が次の授業で準備できれば生徒の歴史的思考力をさらに伸ばさせるきっかけになるはずである。生徒が歴博まで行けない場所であっても、特に web 上で公開されている「洛中洛外図屏風」「江戸図屏風」もしくは教員が撮影した模型の写真などでそのような教材の作成は可能であろう。検討してみたい。

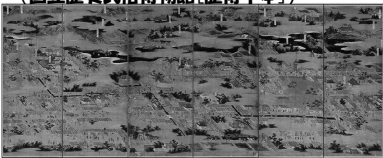
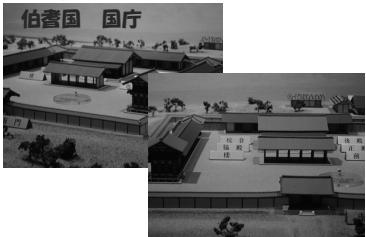
6. 私の考える歴博活用法

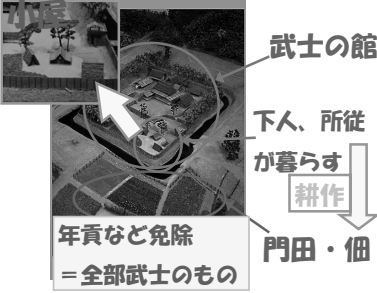
2年間の博学連携研究員期間に筆者は他にもいくつかの PowerPoint 教材を作成した。

以下、教材の例

- ① 縄文文化の扉を開く（三内丸山遺跡の模型写真を活用）
- ② 戸籍と計帳（正倉院文書の画像データ・官衙の模型写真を活用）
- ③ 武士の館（武士の館の模型写真を活用）
- ④ 洛中洛外図で復習する戦国時代（洛中洛外図屏風の画像データを活用）

「四つの口」の教材も含め、これらを事前指導の教材とする授業も考えられる。

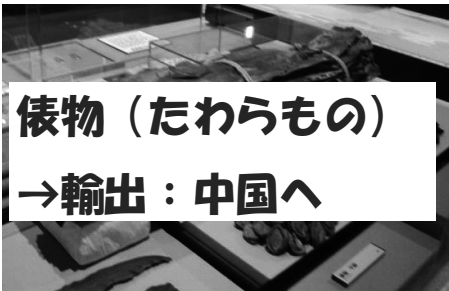
時間	○学習活動 ●学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
45分＝ 1校時	<p>○①②③④を活用した事前学習</p> <p>●博物館の展示～資料の確認</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">博物館にはこんな資料が展示してある</p> <p>●展示室の活用を想定した。 ワークシートの作成</p> <p>〈教材例〉</p> <p>らくちゅう らくがい ず 洛中洛外図屏風 (国立歴史民俗博物館[歴博甲本])</p>  <p style="font-size: small; text-align: center;">National Museum of Japanese History [http://www.rekihaku.ac.jp]</p>  <p style="font-size: small; text-align: center;">国立歴史民俗博物館 National Museum of Japanese History [http://www.rekihaku.ac.jp]</p>	<p>□提示された「見どころ」や「ポイント」、そこから考えた疑問点や確認したい点などについて整理させる。</p> <p>■ア-1（観察） エ-1（ワークシート）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>2012年度 荻窪高校（難波の）日本史B プリント-特別復習</p> <p>《洛中洛外図で復習する室町～戦国》</p> <p>洛中洛外図＝室町(戦国)時代～江戸時代の(1)の</p> <p>内外(＝洛中洛外)の様子を描いた屏風 “洛”＝(2)＝中国の都</p> <p>〈祭りのようす〉</p> <p>◎(3)祭…(4)：京都の商工業者が中心</p> <p>彼らの中には日親の布教などによって(5)宗が広まっていた</p> <p>彼らは(6)という関係を結んで、一向一揆などと争った</p> </div>

		
45分×3～4	○事前学習を踏まえた展示室の見学	<input type="checkbox"/> 事前学習を踏まえると同時に、新たな“気づき”を促す。 <input checked="" type="checkbox"/> ア-1 (観察) <input type="checkbox"/> エ-1 (ワークシート)

〈スライド例〉

(5 オランダ) (6 中国)
との貿易 【長崎】口

(7 出島)



俵物 (たわらもの)
→輸出：中国へ

ほしあわび
干鮑

いりこ
煎海鼠

ふかひれ
鱧鰭

〈ワークシート〉

2013年度 荻窪高校 (難波の)日本史B フリント-27(その2)

1641年以降の日本(江戸幕府)・・・貿易は中国とオランダだけ・・・「鎖国」?

方針・・・キリスト教の禁止→(1)の実施

(2)制定＝人々の信仰を寺が管理

しかし・・・「鎖国」＝国が閉ざされた?

(3)が開いていた＝(4)

◎(5)・(6)との貿易【長崎】口

・・・(7)

◎(8)との交易【対馬】口 (9)の活躍

貿易の開始←1609年、(10)・(11)の来訪

◎(12)との交易【薩摩】口 1609年、(13)氏侵攻

(14):琉球国王の即位の挨拶

(15):徳川将軍の即位のお祝い

◎(16)での交易【松前】口

・・・(17)氏とアイヌの人々

“鎖国”という名の“(☆)”

年 組 番 氏名

江戸幕府を中心とした17世紀後半～19世紀前半の貿易と外交

